

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月29日
- 事業名 : 学びをつなぐプロジェクト
- 資金分配団体 : 中国5県休眠預金等活用コンソーシアム
- 実行団体 : 特定非営利活動法人まなびデザインラボ

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
知的好奇心を呼び起こし、若者が就学に向けて意欲を喚起するプログラムや場を提供する	体験学習の受講者	50人/月	各事業年度終了時点	12人/月	2
同上	体験学習を動画にし配信したものの視聴者	100人/月	同上	8人/月	2
フリーランスという働き方も選択できるように関連ノウハウ等を学べる場を提供する	フリーランス養成講座の受講者	40人/年	同上	6人/年	2
就学で失敗しても再挑戦できるよう、自己肯定感を高められるプログラムや場を提供する	自己肯定感の勉強への参加者が、「自分の長所」を書き出せる数	3個	同上	3個	2
同上	自己肯定感の勉強会・動画版の視聴者数	100人/月	同上	3人/月	3

地元の学校や教育機関とのネットワークを構築・拡大させる	地元教育委員会に対する依頼文の提出数	1回／年	同上	0回／年	3
同上	出席扱いとする中学校をリスト化し教育委員会に提出数	4回／年	同上	0回／年	3
保護者や他の教育機関に対して情報提供や相談の機会を提供する	保護者や関係機関からの相談対応件数、または保護者・関係機関に対する情報提供件数	50件／年	同上	36件／年	2
同上	保護者や関係機関と行う情報交換の件数	36件／年	同上	14件／年	2
地元のフリーペーパーやFBおよびGoogle 広告で宣伝を打つ回数	地元のフリーペーパーで広告を打つ回数	1回／月	同上	1回／月	2
同上	FB および Google 広告で宣伝を打つ回数	4回／年	同上	0回／年	3

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
活動日時の分散化

## ③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等） → 山口新聞、毎日新聞、KRY 山口放送
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	進捗状況判断の客観性	黒葛原 健太郎	公認心理士
外部	受益者の満足度判断基準	松田 茂	ひだまりの会代表
内部	アウトプット、アウトカムの集計	小松範之	まなびデザインラボ理事

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
不登校生徒など、就学や就労に課題を抱える若者	1日の座学勉強時間	4時間／日	助成事業完了時点	21年度末時点の進捗状況は「1時間／週」。事業開始前には行っていなかった学習専用の時間「ひるまの寺子屋」プロジェクトを2022年6月より開始。フリースクールの生徒が参加するようになった。夏休みの課題のワークなどに毎週2時間取り組むようになった。

同上	フリーランス養成講座の理解度テストにおける合格者数	合格率 70%相当	各事業年度終了時点	21年度末時点の進捗状況は「テスト未実施」。 フリーランス養成講座の公開録画を兼ねて、リアル講座を2回開催。不登校経験のある高校生6人が参加。 ただし、講座の内容設定が難しすぎたきらいもあり、参加する生徒が少数に留まったことから、講座の構成等を再検討する予定。そのため、理解度テストは未実施。
同上	作成したオリジナル作品による収益	累計売上 10万円	各事業年度終了時点	21年度末時点の進捗状況は「作品点数0件、売上0円」。 生徒の意向により、海や川での野外活動を優先したためオリジナル作品は作成点数が0点。したがって売り上げも0円。今冬以降、室内活動を利用し作品作りをする。
同上	1か月の外出日数	8日/月	助成事業完了時点	21年度末時点の進捗状況は「2日/月」。 事業開始後、不登校の小学生、中学生が週1回のペースでフリースクールを利用するようになった。目標値のうち、2022年5月より4日/月は達成している。
同上	自主的に外出する日数が増えた人数	20名増	助成事業完了時点	21年度末時点の進捗状況は「0名増」。 事業開始後、フリースクールの活動に参加した男子高校生2名が、2022年5月より週3回程度のアルバイトを開始。自主的に外出するようになった。 目標値のうち、2名は達成している。

地元の学校	フリースクールへの参加を学校の出席扱いとしてくれる中学校の数	30件	助成事業完了時点	21年度末時点の進捗状況は「1件」。 事業開始後、新たに出席扱いになった中学校は2件。いずれも周南市内に限られている。目標値を達成するには、近隣の市においても出席扱いとなる必要がある。ただし、現時点ではいずれの生徒も周南市内在住。
地元の教育関係者や保護者など	アンケートにおいて、実行団体による情報・ノウハウ提供が「有益だった」と回答された件数	40件／年	助成事業完了時点	21年度末時点の進捗状況は「0件／年」。 【教育関係者】2022年秋以降に、行政や市議を含めての協議の場が開かれる予定である。そのため現時点では0件/年。 【保護者】5件/年 不登校茶話会にて、「有益だった」との回答が得られた。
(実行団体やその取り組み等を知った) 地域住民や市民	①フリースクール等利用者数 ②実行団体設置の動画チャンネル登録数 ③同チャンネル動画再生時間数	① 100名 ② 1000名 ③ 1400時間	助成事業完了時点	21年度末時点の進捗状況は「①11名、②0名、③0時間」。 ①24名 ②0名 ③0.8時間



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>全体状況としてはコロナ禍の影響もあり、短期アウトカムの8項目のうち当初の想定からすると7件に進捗の遅れが生じている状態。ただし、2021年度末時点から比べると、8項目中6項目で数値が純増している。</p> <p>具体的な状況としては、自主的な勉強時間を増やすための試み「ひるまの寺子屋」プロジェクトを行ったところ、不登校生徒の学習時間を安定的に増やすことができた。</p> <p>その分、他の活動に割ける時間が減ったこともあり、目標値に向けて数値が伸び悩んでいる項目もある。</p> <p>そのような項目に関しては、一部取り組み方について改善を図ることで達成率を高めたい。</p> <p>(例：フリーランス養成講座の再編成)</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動内容や各種取り組みは、当初の計画に沿った内容・スケジュールどおりに実施されているか	やや遅れている部分もあるが、おおむねスケジュール通りに実施されている	<p>フリーランス養成講座、自己肯定感勉強会といった「講座開催事業」については、概ねスケジュール通りに実施しているが、開催形態の再検討（実習内容のレベル設定見直しなど）を行い事業効果の向上を図りたいと考えている。</p> <p>YouTube 運営については、思ったように動画の更新が進んでいない。この背景には動画編集等に予想外の時間がかかることがあった。とはいえ、動画編集の時間を確保するために、生徒との対応時間を減らすことはできない。そのため、YouTube 運営は、細く長く継続していく必要があると感じている。</p> <p>地域でのネットワーク構築については、継続的に取り組みを進めているが、新たに関係構築ができたことを踏まえて、活動形態を当初のものから変更することを検討している（書面通知→対話の場の継続開催）</p>
実施とおした活動の改善、知見の共有	事業をめぐって他の関連機関との間でどのような情報が共有されているか。また、連携による新たな取り組みが生まれたか	当初計画していなかった、市議への相談をきっかけに行政との話し合いの機会が設けられることになった。	<p>行政との話し合いの機会が設けられることにより、行政や学校との情報共有が進むことを望む。</p> <p>また、話し合いにむけての情報収集として、大阪のNPO法人にzoomインタビューを行った。これにより、先進事例との比較ができた。</p>



組織基盤強化・ 環境整備	第三者からも信頼される ような組織基盤の強化に つながる取り組みが行わ れたか	資金分配団体から提 示された「組織診断シ ート」により組織運営 に関する強化点や改 善点等を把握	左記シートへの活用を通じて、今後の事業展開や組織運営上の課題 点について資金分配団体の PO と共有した（例：実行団体やその取 り組み内容等についての広報・周知不足など）。 現在、資金分配団体でその課題解決に向けた対応策や支援策などを 検討中。
-----------------	--	--	--

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

1日の座学の時間を確保するため、ひるまの寺子屋プロジェクトを開始した。自由参加にもかかわらず、フリースクールの生徒3名が毎週木曜日10:00～12:00に自主学習をするようになった。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

市議会議員に相談することで、行政や教育委員会との会合の場が実現しつつある。また、会合での情報提供のため、大阪の先進的フリースクール（公設民営）に対してzoom取材をすることができた。これにより、運営上のアドバイスを受けると同時に、県外とのつながりができた。



## ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>事業を開始したときには予想していなかった、行政との話し合いが実現しようとしている。今後も、事業計画に沿って進む中で、現状の外側の可能性を探っていきたい。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

行政との話し合いを進めたい。単にノウハウなどの情報共有にとどまらず、先進事例のように公設民営化の可能性はあるのか？を探っていきたい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

